

第3回石岡市小中学校統合計画審議会

日時 令和6年7月29日（月）
午後2時から

場所 八郷総合支所401会議室

次 第

1. 開 会

2. 議 事

(1) 八郷中学校地区の小中学校統合再編に関する

PTA意見交換会の開催結果について

(2) 答申案について

3. 閉 会

【資料】

・ 第3回石岡市小中学校統合計画審議会出席者名簿

・ 資料1 PTA意見交換会要旨

・ 資料2 答申案

石岡市内小中学校の適正配置・統合再編の時期について

八郷中学校地区の小学校統合再編に関する PTA 意見交換会 要旨

日 時 令和6年7月10日(水) 午後7時から午後8時15分
場 所 八郷総合支所4階 401会議室
出席者 各PTA代表者(会長及び副会長) 9名
事務局 小倉課長、土師課長、島田課長補佐、中島係長

内 容

- (1) 全体説明
- (2) グループごとの意見交換

概要

- ・統合について賛同する意見が多数。
意見についてはとりまとめ、各PTA代表者及び統合計画審議会に示す。

○主な意見

■瓦会・恋瀬グループ

- ・統合が1回であることは理解が得やすい。
- ・審議会や今後の検討委員会などでPTAからの委員が変更になると引継ぎが上手くいかないなどの懸念もある。
- ・跡地活用については地域として気になるところ。
- ・不登校対策の特例校などとしての活用もあるのか。
- ・地域の避難所がなくなってしまうことへの不安感もある(特に高齢者)
- ・説明を聞き、統合によるメリットや教育面での充実など一定の理解はできた。そのメリットを様々な場面で打ち出していくことが必要と思われる。

■吉生・葦穂グループ

- ・統合後、なじめない子供たちの支援体制をつくってほしい。
- ・現在の単学級ではクラス替えがないが、統合すればクラス替えがあり交流が増えることに期待する。
- ・旧小学校の教員を数名ずつ配置し、統合後の子どもの不安を解消できるようにしてほしい。
- ・8校の統合には賛成。
- ・3校統合には反対でも8校統合には賛成の保護者も多いのでは。
- ・「統合を一気に進める」と示した方が、具体的な議論ができる。
- ・統合により身近な地域のコミュニティがなくなる、という考えの人たちもいるだろう。
- ・統合後のバス運行で、集合場所などはどうなるのだろうか。

■林・柿岡グループ

- ・人口減（特に転出）が否めない状況。子ども達にとって良い環境整備をして八郷の魅力を引き出す施設（八郷は野球・バレーが強いのでそれを活かせる専用の施設）を作ってはどうか。
- ・人数が多いとできることが多いので2クラス以上が望ましい。クラス替えの楽しみや、勉学、運動面において切磋琢磨して成長していける。
- ・小中一貫校や義務教育学校が今後のどうなっていくのか気になる。
- ・統合するにあたり、先のことも考え、八郷地区の未就学児の保護者にも意見を聞いてみてはどうか。

■小幡・小桜グループ

- ・やっと動き出したという印象。
- ・ほとんどの学校が複式になるのが目に見えている。高校にいったらそこその人数になるので早めに大人数の環境になってほしい。
- ・今は子どもが6年生。その子が卒業するかしないかぐらいの頃になにかあるぐらいの意識しかなかった。数字だけみると早いうちに統合に進めたほうが良いとは思いつつ、児童数が多いことによる先生の負担は大丈夫なのか。
- ・スクールバスの負担軽減は必要。低学年だけでも無償にするなどしてほしい。
- ・小桜小はすぐ側に公民館や農協の駐車場があり、お迎えなどで使いやすい。児童数に見合った大きな駐車場が必要。頻発する大雨や夏の暑さなど環境が変わっている。
- ・少ない保護者数でPTAも子ども会の役員を担っており負担である。統合により保護者数が多くなれば保護者の負担軽減になる。
- ・小学校の運動会とスポ少の大会がかぶることがある。多くの児童がいれば、参加しているスポーツ団体も多くなるので学校行事とのすり合わせが必要。

石岡市内小中学校の
適正配置・統合再編の時期について

【答申案】

令和 年 月

石岡市小中学校統合計画審議会

はじめに

全国的な少子化傾向が顕著になってから久しく、本市においても、小学校では複式学級が組み込まれ、中学校では単学級の学年が発生するなど、明らかに学校の小規模化が進んでいる状況にある。

石岡市教育委員会においては、発達段階にある子ども達にとって、社会性を育み、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨する場所として学校には一定の集団規模の確保が望ましいという考えから、多様な学習活動や集団活動の展開を図るため、適正規模・適正配置の基本的な考え方を示し、統合再編の枠組みを設けた石岡市立小中学校統合再編計画を令和元年6月に策定し、計画に沿って令和6年4月には、高浜小学校・三村小学校・関川小学校を南小学校へ統合するとともに、北小学校を府中小学校へ統合したところである。

そのような状況のなか、石岡市立小中学校統合再編計画の策定から5年が経過し、小学校の状況や将来の推計に変化が生じていることから令和5年9月に石岡市教育委員会から次の事項において諮問を受けた。

(1) 市内小学校の適正配置について

(2) 統合再編の時期について

本審議会は、この諮問を受け、八郷地区小学校における適正配置や統合の時期について審議し、検討を重ね、本答申をまとめた。

本答申が、今後の石岡市の教育行政に反映され、次世代を担う子ども達のより良い教育環境の充実に寄与することを強く期待する。

1. 市内小学校の適正配置について

八郷地区小学校の統合の枠組み

瓦会小学校・林小学校・恋瀬小学校・葦穂小学校・吉生小学校・柿岡小学校・小幡小学校・小桜小学校の8つの小学校においては、現在の石岡市立小中学校統合再編計画(以下、「現計画」という。)の統合方針を改め、8つの小学校を1回で統合し、八郷中学校との小中一貫校としての設置を目指す。

本枠組みとした理由

- (1) 現計画における段階的な統合を進めても小学校で12学級以上とする適正規模に至らないため、1回での統合が望ましいこと。
- (2) 8校統合により、令和13(2031)年度で16学級、令和32(2050)年度でも12学級を維持できる見込みであり、長期間適正規模の基本的な考え方に合致した学校となること。
- (3) 令和13(2031)年度の8校統合時の児童数予測は、461人であり、現在の大規模校と同水準であることから、学校経営ノウハウが確保できること。
- (4) 八郷中学校地区の児童生徒が多様に関わりながら、9年間のねらいや系統性を共有する連続した学びによって、教育の質的向上が期待できる小中一貫教育が可能となること。

予定する学校の場所

八郷中学校の隣接地

場所の理由

- (1) 八郷中学校との小中一貫教育を行うために隣接地が望ましいこと。
- (2) 八郷中学校の隣接地は、柿岡小学校以外の7校がある地区から見てほぼ中央である。よって、登校に伴う児童負担が平準化され、通学バスの所要時間が最長でも30分程度となること。
- (3) 八郷中学校の通学バスとルートが重なり、小学生と中学生の混乗を検討することで効率的に通学バスを運行することができる可能性があること。

2. 統合再編の時期について

統合再編の時期

令和 13(2031)年度を目指す。

時期の理由

- (1) 8校の老朽化が進んでおり、今後数年で長寿命化等の改修工事をしない場合、施設維持が困難となり、各校それぞれで改修工事等を実施することは本市財政への負担が大きいこと。
- (2) 用地の取得をはじめ、設計や工事スケジュールを考慮した場合、最短でも6年程度を要する見込みであること。

3. 補足事項

先行統合

8校統合前に保護者や地域住民等との調整が整った場合は、先行して統合することも検討する。その場合は、統合先を柿岡小学校とする。

先行統合の理由

- (1) 先行統合により柿岡小学校が2学級となる学年が増え、教育環境が充実すること。
- (2) 統合校の予定地が柿岡小学校の学区内であること。
- (3) 8校の中で最も規模が大きい学校が柿岡小学校であり、受け入れることができる児童数に最も余裕があること。

4. 統合において配慮すべき事項

(1) 保護者や地域住民との合意形成と跡地利活用

- ・統合校及びそれに関連する学校の保護者や地域住民に対して十分な説明を行い、理解と協力を得ながら地域の機運醸成を図り進めること。
- ・閉校する学校跡地の活用について、施設の状況や地域の意見を十分考慮しながら、有効活用が図れるよう閉校前から検討を進めること。ただし、石岡市公共施設等総合管理計画における、施設総量の削減目標を踏まえ、新たな財政支出または維持経費の増加を伴わないようにすること。さらに、一定期間が経過しても具体的な有効活用手法が決定しない場合は、施設の解体を行うこと。

(2) 通学等の支援

- ・児童の通学手段として、登下校用のバス等を運行させる場合は、運行ルートの効率化を図りつつ、バス等の費用について可能な限り負担軽減に努めること。
- ・学区の広域化による児童への負担を十分に考慮し、安全・安心な通学のため通学路の交通安全の確保に取り組むこと。

(3) その他

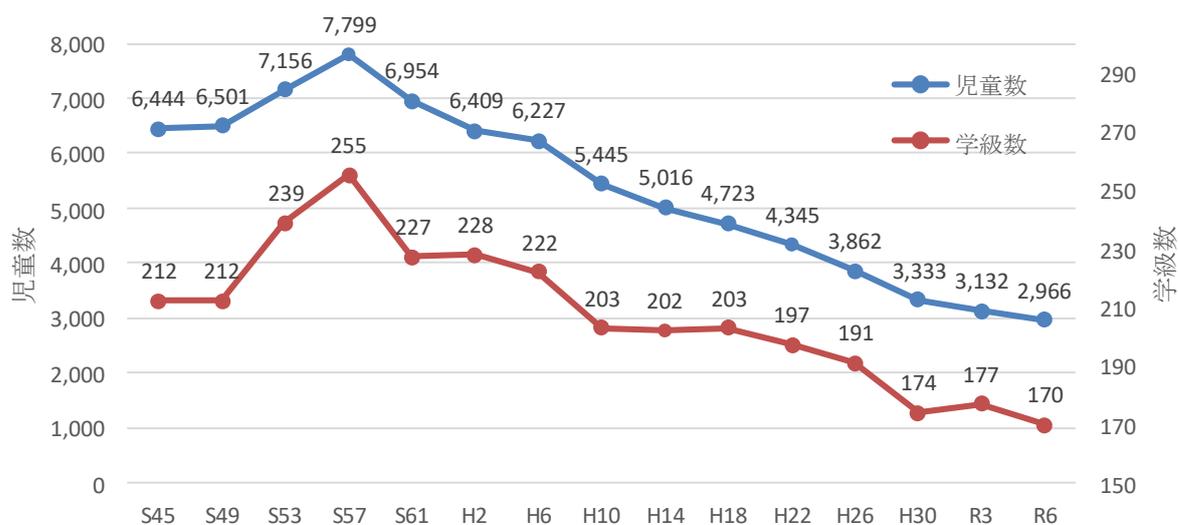
- ・子ども達にとってスムーズな統合再編とするため、統合前においては子ども達の交流を図り、統合後においては不安や悩みを取り除く心のケアに取り組むなど、より良い学校生活を迎えられるよう必要な事業を計画し、実施に努めること。
- ・本市独自の創意ある学校教育を推進し、家庭、学校、地域が連携しながら、児童がいきいきと学べる環境を整えることで児童の生きる力を継続的に育むこと。

5. 参考

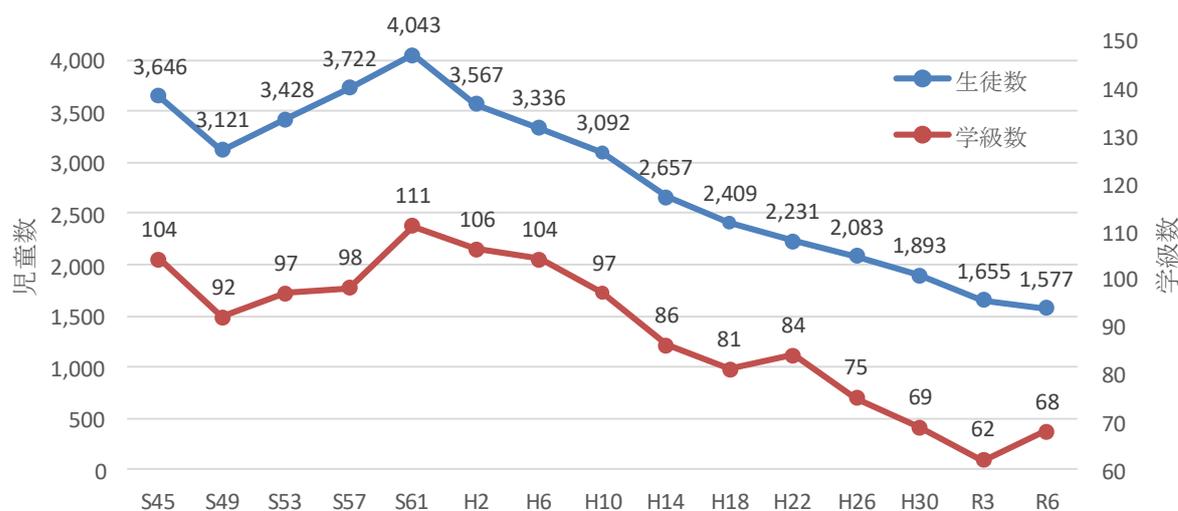
(1) 児童生徒数の推移

石岡市の児童生徒数の推移を見ると、全国的な少子高齢化の傾向が強く反映され、小学校の児童数は昭和 57 年、中学校の生徒数は昭和 61 年にそれぞれピークを迎えたが、令和6年度には小学生が 2,966 人、中学生が 1,577 人と児童生徒数ともピーク時の約4割に減少している。

【小学校】児童数・学級数 <図1-1> 単位：人・クラス



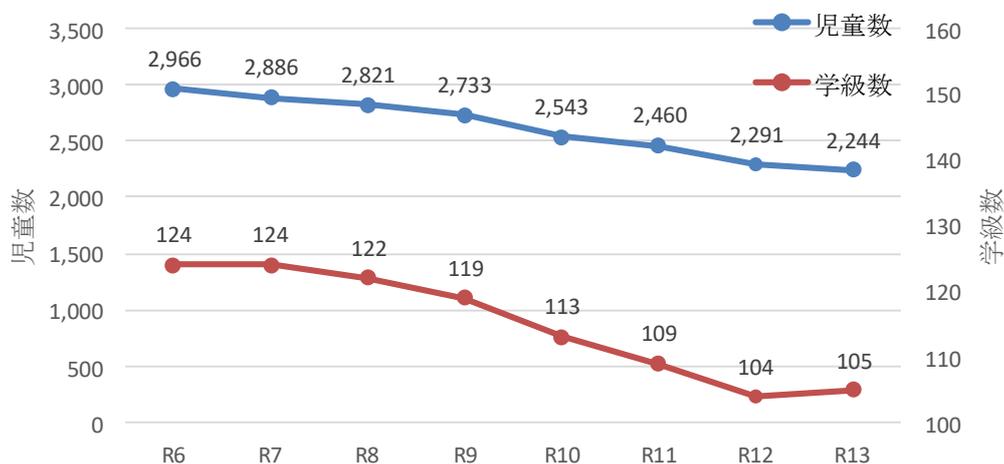
【中学校】生徒数・学級数 <図1-2> 単位：人・クラス



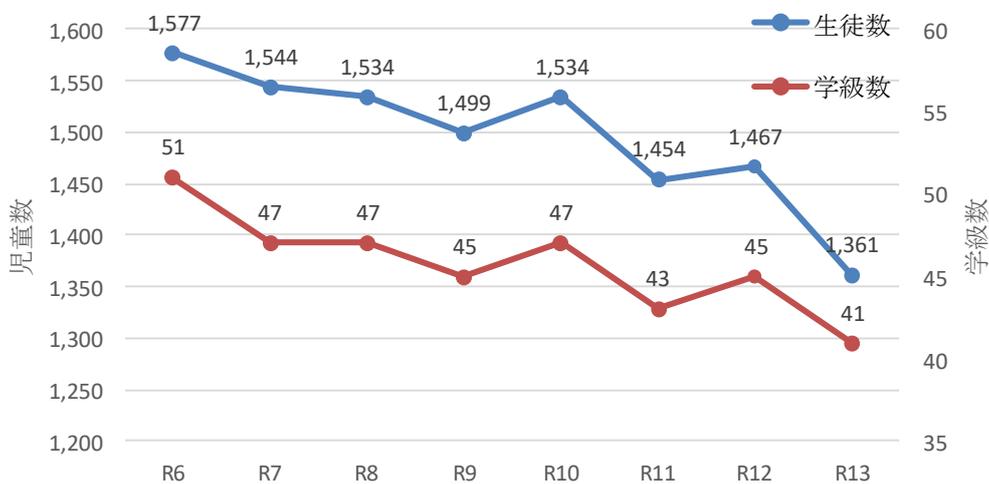
(2) 児童生徒数の将来推計

市内小中学校児童生徒数等の推計は以下のとおりで、減少傾向は今後も続くと予測される。

【小学校】児童数・学級数の予測 <図2-1> 単位：人・クラス



【中学校】生徒数・学級数の予測 <図2-2> 単位：人・クラス



- ※児童生徒数は特別支援学級の人数を含み、学級数は特別支援学級数を含まない。
- ※小学校は1学級35人、複式学級は2学年で16人以下で試算。中学校は1学級40人で試算。
- ※令和7年度以降の児童数推計は、出生児の情報を基に試算。
- ※令和7年度以降の生徒数推計は、小学校の児童数を基に試算。

(3) 八郷中学校地区の小学校の将来推計

八郷中学校地区の小学校の児童数等の推計は以下のとおりである。減少傾向は今後も続く
と予測されるが、8校全体の児童数としては長期間にわたって一定規模の確保ができることが見
込まれる。

8校それぞれの現状と将来推計

対象校	校舎建 築年	平成31年度（2019年）		令和6年度（2024年）		短期推計		長期推計	
		児童数	学級数	児童数	学級数	令和13年度（2031年）		令和32年度（2050年）	
						児童数	学級数	児童数	学級数
瓦会小学校	S54年 (1979年)	65	5	63	6	43	4	27	3
林小学校	S56年 (1981年)	133	6	104	6	74	6	47	4
恋瀬小学校	S61年 (1986年)	72	6	85	6	48	4	38	3
葦穂小学校	H5年 (1993年)	65	6	54	6	44	3	23	3
吉生小学校	S53年 (1978年)	37	4	38	4	36	4	14	3
柿岡小学校	S48年 (1973年)	162	6	179	6	112	6	82	6
小幡小学校	S59年 (1984年)	102	6	94	6	55	4	41	4
小桜小学校	H6年 (1994年)	96	6	102	6	49	4	47	4
合計		732	45	719	46	461	35	319	30

8校を1校に統合した場合の現状と将来推計

令和6年度（2024年）			令和13年度（2031年）			令和32年度（2050年）		
学年	児童数	学級数	学年	児童数	学級数	学年	児童数	学級数
1年	101	3	1年	91	3	1年	44	2
2年	116	4	2年	55	2	2年	51	2
3年	130	4	3年	72	3	3年	57	2
4年	124	4	4年	66	2	4年	56	2
5年	134	4	5年	87	3	5年	61	2
6年	114	4	6年	90	3	6年	50	2
合計	719	23	合計	461	16	合計	319	12

- ※児童数は特別支援学級の人数を含み、学級数は特別支援学級数を含まない。
- ※小学校は1学級35人、複式学級は2学年で16人以下で試算。
- ※令和13年度の児童数推計は、出生児の情報を基に試算。
- ※令和32年度以降の児童数推計は、本市の長期推計を基に試算。

(4) 石岡市における小中一貫校による適正配置の考え方

小中一貫教育は、小中学校の教員が、子ども達の成長過程をイメージし、共有しながら、教育内容や学習活動の量的・質的充実に対応して9年間を通じた教育課程を編成し系統的な教育を実施できる学校制度である。

小小連携、小中連携の取組みや近隣学校の施設規模、地域性等を考慮し、多様化する学校教育への対応をしていくため、小学校で12学級、中学校で9学級以上とする適正規模の基本的な考え方を踏まえつつ、小中一貫校の適正配置を進める必要がある。

【石岡市教育大綱】基本目標

ふるさとに学び 夢にはばたく 輝くひとづくりのまち

【石岡市学校教育グランドデザイン】学校教育が目指す児童生徒の姿

協働

- ・課題を発見、設定、解決、発信しようとする。
- ・多様な他者とコミュニケーションをとりながら、協働的に学ぼうとする。

自律

- ・自ら考え、判断し、行動する。
- ・学びを調整しながら、主体的に学習に取り組もうとする。
- ・試行錯誤しながら、たとえ失敗しても、粘り強く挑戦し続ける。

自他の尊重

- ・自分のよさを発揮しながら、自分らしく、自信をもって学ぶ。
- ・多様な価値を認め、他者を価値ある存在として尊重しながら、共に高め合う。

探究的な学びの 継続的推進

- ・9年間のねらいや系統性を共有
- ・自ら課題を発見し、解決に取り組み、まとめ、表現し、新たな課題を見つける学びを推進し、生きる力を継続的に育む。

豊かな心を育む 教育の充実

- ・9年間の児童生徒の多様なつながり
- ・多様な価値を認め合い、尊重し合う。
- ・友と粘り強く挑戦する。

9年間の学び
をつなげる

子どもの育ち
をつなげる

小中の教職員
をつなげる

学校・家庭・地域
をつなげる

創意ある教育活動

- ・互いの教育内容、教育方法などを相互に理解し、協働的に実践することによる教員の指導力向上
- ・教科担任制による専門性を活かした探究的な授業実践

「ふるさとへの誇り」の育成

- ・より地域が一体となったコミュニティスクールの推進
- ・ふるさと学習の充実

おわりに

小中学校における学校環境は、多感な発達段階にある子ども達にとって、大きな影響を与える場の一つであり、多様な考えを持った他者とふれあいながら人間関係を築き、集団を通して切磋琢磨できる環境を構築するためには、一定の集団規模の確保が必要である。

しかしながら、本市においては、急速な少子化が進展し、令和元年6月に策定した現計画における八郷中学校地区の8つの小学校の将来児童予測が令和12年度で607名だったのに対し、最新の推計では480名となっており、柿岡小学校及び林小学校以外の6校で複式学級の学年が生じる可能性がある。

このような状況を踏まえ、まず、複式学級の解消を行い、その後適正規模化する方針を示した現在の計画を改め、可能な限り早期に8校統合を目指すことは喫緊の課題である。

昨年度に開催した地域住民の方を対象とした住民懇談会でも、統合を求める声は多く、統合の時期についても早期の統合を求める声は多い状況であった。さらに、今年度で開催した8校のPTA代表者を対象とした意見交換会においても8校統合に関する賛同の声が多く寄せられた。

一方で、通学バスや統合後になじめない子ども達への支援体制などへの不安の声もあり、これらの不安を解消できるよう取組を進めていく必要がある。加えて、保護者や地域住民との合意形成と跡地利活用についても重要な事項であることからこれらを統合において配慮すべき事項として記した。

今回は八郷中学校地区の小学校統合について審議を行ったが、今後も統合再編に係る学校は残っており、必要に応じて審議していく必要があるものとする。

今後の人口減少社会において、財源が限られてくる中でも、統合再編を進めることにより、一定の集団規模の確保や教員配置の充実、新しい時代の学びに対応できる学校施設の整備が可能となる。それによって本市の教育目標である「ふるさとに学び夢にはばたく 輝くひとづくりのまち」が実現し、一人ひとりが持続可能な地域社会の創り手となれるよう、夢と期待を込めて答申とする。